

## ■パイプハウスの災害被害防止のためのチェックシート

確認日： 年 月 日

パイプハウスは、低コストな資材を活用して作られています。このため組み立てやすいように支柱は差し込み式で金具類はクサビやネジで構成されているため、気象災害を受けやすい施設となります。

このため、日々の点検やメンテナンスをしっかりと行い、施設に合った補強方法を活用していきましょう。

また、突風・地震などを除けば、台風や降雪については、事前に天気予報等で詳細な情報が手に入りますのでしっかりとした準備を行いましょ。

No.1

	No	チェック項目	チェック欄	対処方法
普段のチェック	1	被覆が破れていないか？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・適期の被覆更新を心がける。</li> <li>・破れは速やかに補修テープ等で塞ぐ。</li> <li>・農POで硫黄燻蒸を行っている場合は注意！</li> </ul>
	2	パイプが錆びていないか？ (特に地際部や金具の接続部)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・錆が見られたら早期に再塗装を行う。</li> <li>・地際部の腐食が激しい場合はパイプを添えて補強する。</li> </ul>
	3	部品に緩みがないか？ (クサビなどの外れ)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・金具に緩みがないか？適切な位置になっているか確認する。</li> <li>・部品が外れていないか？欠落していないか確認する。</li> </ul>
	4	出入り口のカギは閉まっているか？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入口部の損傷や腐食の場合は速やかに部品を交換する。</li> <li>・開けにくい、外れ易いなどは調整する。</li> </ul>
	5	出入り口から隙間風は入らないか？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・扉の閉時に隙間を確認し、隙間を補修する。</li> </ul>
	6	フィルム押さえに損傷はないか？ (スプリングやマイカー線など)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイカー線は適期更新し、破損は速やかに交換する。</li> <li>・スプリングは外れや腐食などを確認し適時更新する。</li> </ul>
	7	道具類の準備		<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐ必要になる資材は常に準備しておく。</li> <li>・脚立、工具、農具など必要などはすぐ使用できるようにする。</li> </ul>
	No	チェック項目	チェック欄	対処方法
台風・降雪前のチェック(準備)	8	応急修理用の資材を準備する。 (被覆材・補修テープ・スプリング・マイカー線など)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・被覆材はあてがう程度は準備しておく。</li> <li>・補修テープ、スプリング、マイカー線はある程度準備しておく。</li> </ul>
	9	ハウス周辺の片づけ。 (飛ばされて破損されない様に)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺にハウス部品、コンテナ類、シート類など飛散が予測される物は片づける。</li> </ul>
	10	谷樋があるハウスはゴミが詰まっていないか確認する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨降雪時に樋の雨水があふれないようゴミを取り除く。 (特に近くに樹木がある場合は必ず確認する)</li> </ul>
	11	ハウス周辺の排水対策を行う。 (明渠等の掘削)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・明渠の掘削を行うだけでなく排水先を確保する。</li> </ul>
	12	燃料タンク類の固定はしっかりしているか？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料が入っている場合は特に注意し、周辺を利用し固定する。 (転倒し油が流出すれば被害は拡大する)</li> </ul>
	13	【融雪対策】 燃料は満タンになっているか？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雪前に十分な室内温度を確保し、融雪に努める。この際、室内のカーテンや内張りとは空けて融雪の効果を上げること。</li> </ul>
14	【融雪対策】 ウォーターカーテン活用のハウスは作動を確認しておく。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根に着雪前にウォーターカーテンを作動させることにより室内の放熱抑制と融雪効果を促す。</li> </ul>	

No	チェック項目	チェック欄	対処方法
15	排水用のポンプがあれば準備しておく！		<ul style="list-style-type: none"> <li>排水ポンプの作動を確認しておく。</li> <li>設置位置や電源の確保をしておく。</li> </ul>
16	発電機があれば準備しておく。 (制御盤や自動換気の早期復旧)		<ul style="list-style-type: none"> <li>発電機の作動や燃料を確認しておく。</li> <li>設置位置や電源の確保をしておく。</li> </ul>
17	巻き上げ換気の閉位置や動作を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>台風時はより密閉する。</li> <li>降雪時は換気できるように浅くする。</li> <li>自動換気は手動に切り替える。</li> </ul>
18	<b>【強風・台風対策】</b> 換気扇があれば準備しておく！ (フィルムを未着させる効果を促す)		<ul style="list-style-type: none"> <li>換気扇の作動を確認しておく。</li> <li>作動による負圧でフィルム等が損傷しない程度に調整する。</li> </ul>
19	浸水が予想される場合は、機器類を被害の受けにくい場所へ移動する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>電気を使用するものは特に実施する。</li> </ul>
20	浸水が予想される場合は、電気のブレーカーを落とす。 (ショートを避ける)		<ul style="list-style-type: none"> <li>制御盤、モーター類は特に注意する。</li> </ul>
21	出入り口固定を行い、風・水圧で開かないようにする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺の骨材や鴨居に固定できる様にしておく。</li> <li>※扉どうしを中央で固定しても扉全体が風圧と振動でズれる。 (紐や針金などで固定できるようにする。)</li> </ul>
22	<b>【雪対策】</b> 雪の滑落を妨げるネットや外部遮光などを外しておく。		<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットや外部遮光は外す。</li> <li>外すことが出来ない場合は上からフィルムで覆う事も有効です。</li> </ul>
23	作物が無く、更新予定や不要なフィルムは外しておく。		<ul style="list-style-type: none"> <li>不要なフィルムを外すことにより骨材の損傷を防ぐ。</li> <li>※屋根だけを外すことでもかなり有効。</li> </ul>

No	チェック項目	チェック欄	対処方法
24	人命優先・無理な作業はしない！		<ul style="list-style-type: none"> <li>台風到来時は不用意にハウスに近づかない。</li> <li>降雪の場合は不用意にハウスに入らない。</li> </ul>
25	一人で作業しない！		<ul style="list-style-type: none"> <li>作業中のけがや降雪後の倒壊による場合などは救助が遅れるため、災害初期は絶対一人で作業しない。</li> </ul>
26	漏電による感電防止を確認する。 (ゴム手袋・長靴は着用する)		<ul style="list-style-type: none"> <li>台風などの場合は、受電までの送電の損傷を確認する。</li> <li>不用意に電源を入れない。(浸水の場合は乾いてから確認する)</li> <li>漏電箇所(個別ブレーカー)を確認し業者に点検してもらう。</li> </ul>
27	軽度な破損箇所は速やかに補修する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>応急的にフィルムのあてがいをを行う。</li> <li>補修テープ、マイカー線、スプリングを活用し損傷箇所を補修する。</li> </ul>
28	施設周辺の排水や融雪対策は積極的に行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>排水のつまりなどを確認し速やかに排水する。</li> <li>積雪の場合は土や燐炭などを活用し融雪を促す。</li> <li>積雪した施設に水は掛けない。(重量が増し倒壊が予測される)</li> </ul>
29	機器や制御の作動を確認し、栽培管理に備える。		<ul style="list-style-type: none"> <li>通電を確認する。(漏電確認後)</li> <li>制御誤作動がある場合は速やかに業者に点検してもらう。</li> </ul>
30	被害があった場合は、加入する保険に速やかに報告する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>加入する保険会社へ報告し、申告や復旧までの手続きを確認する。</li> </ul>
31	被害の状況は復旧前に必ず写真を撮っておく。		<ul style="list-style-type: none"> <li>復旧してからでは写真の様な憑依書類が確保できないため、災害の状況は詳細に撮影しておく。</li> </ul>